

没後15年 春日井建展

— 歌に戻り、歌に生きる —



愛知県江南市に生まれた春日井建(1938-2004)は、歌人である父・濱と母・政子のもと、幼少時代から短歌に親しみながら育ちました。前衛歌人として知られる塚本邦雄、寺山修司、岡井隆らと活動を共にするなかで、21歳の時に第一歌集『未青年』(作品社)を刊行し、作家の三島由紀夫が序文を寄せたことで話題になりました。しかしながら次第に、テレビやラジオ、舞台の脚本などの仕事を多く手掛けるようになり、第二歌集『行け帰ることなく』(深夜叢書社)の刊行を以て歌から離れます。

のちの1979年、父・濱の逝去をきっかけに、歌誌「短歌」(中部短歌会)の編集発行人を引き継ぐこととなり、歌壇に復帰しました。その後、超結社歌人集団「中の会」を発足し、愛知女子短期大学教授や中部日本歌人会委員長に就任するなど、若手の育成と歌壇の推進に尽力します。晩年は、短歌研究賞や迢空賞などを受賞し、病と闘いながらも新たな歌境を拓きました。

没後15年の節目となる今回の展示では、歌壇に戻ってからの後半生に焦点をあて、短歌界への貢献とその足跡について、当館が所蔵するゆかりの資料を中心にご紹介します。

トークイベント 「春日井建を語る」

作品やその作歌背景、思い出などをお話いただきます。

対 談:水原紫苑(歌人)×加藤治郎(歌人)

日 時:令和元年6月2日(日) 13:30~15:00

会 場:文化のみち二葉館 1階大広間

※入場無料(要入館料) 当日先着順自由席

水原 紫苑(みずはらしおん)

1959年、横浜生まれ。春日井建に師事。歌集に『びあなか』『うたうら』『客人』『あかるたへ』『光儀』『えびすとれー』、エッセイに『桜は本当に美しいのか』など。



加藤 治郎(かとう じろう)

1959年、名古屋生まれ。1983年、未来短歌会に入会、岡井隆に師事。毎日歌壇選者。歌集に『サニー・サイド・アップ』(第32回現代歌人協会賞)、『昏睡のパラダイス』(第4回寺山修司短歌賞)、『Confusion』など。



主催・お問い合わせ

文化のみち二葉館
【名古屋市旧川上貞奴邸】

名古屋市東区榑木町3-23
TEL & FAX 052-936-3836
<https://www.futabakan.jp/>

※このチラシは、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

「ドニエッコきっぷ」【一日乗車券】

を利用してご来館の方は入館料割引!一般200円→160円



交通のご案内

- なごや観光ルートバスメーグル「文化のみち二葉館」下車
- 市バス「飯田町」下車、北に徒歩2分
- 基幹バス2号「白壁」下車、南に徒歩5分
- 地下鉄桜通線「高岳」下車、2番出口より北に徒歩10分
- 名鉄瀬戸線「尼ヶ坂」下車、南に徒歩12分

※駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

